

田代時報



電 19
田代町公民館
兵 川 保 幸
小 久 雄
發行所
發行責任者
編集責任者

1 月 号

印 刷 所 鹿屋市新生社印刷所 電2238

- (1) 今年度は新生活運動として、次の事項が本町において決まりましたので、町民の皆さん方のご協力をお願い申し上げます。
- (2) 年末には、過去一年を省みて、取引関係やその他の締めくくりをしつかりしましょう。
- (3) 年始に、はつきりした一年の計を立てましょう。
- (4) 正月三日間は、国旗を掲げて新年を祝いましょう。
- (5) 家の内外をきれいにして、環境を美化しましょう。
- (6) 七草祝は、子供本位に意義深く簡素にしましょう。
- (7) 年末年始の浪費をつゝみ、貯蓄しましょう。

公民館建設資金
1金 43.050円也

この静財は、町婦人会員の皆さん方が、町公民館建設の希望建ててボロを出し合つてできたものを去る年末に公民館にお届け頂いた分であります。各婦人会員の皆さんに厚くお礼申し上げますとともに今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

皆んなの努力で
明るい正月



英國の有名な科学者で、而も宗教評論家であるダグラスクラークは、最近の著書「再び宗教は必要か」の中で次のように述べている。世の中には、富や閑暇があれば幸福であると考へてゐるものが多いが、人間は経済的な要求をすべて満足させても、何か欠けているという不安があり、その様な場合人々はその不安、不満をこまかす為に、麻酔薬や酒類に関心をもつようになり、やがて墮落の路を辿るようになるものなのである。この墮落を救い、人間を進化せしめるものは即ち宗教である。従つて科学の發展や経済の繁栄のみでは人間の進展は期せられず、却つて墮落の路に入つて破滅を来す恐れがあるので、宗教は益々必要となるのである。

× × ×

非行青少年が必ずしも貧困の家庭から出づに富裕な家庭から出る傾向が増大し、又最近の経済的繁栄は未嘗有のものであるにかゝはに必要なことであると思う。

經濟的繁栄に奮励しつゝ、常につゝしみと祈りと行を続けて行くことが眞に自己の向上と世の進展に必要なことであると思う。

門松を立てゝ祝うことは祭りであり祈りである。国旗を掲げるのも、日本の本の國の榮えを祝福する祈りの心に通ずるのである。

(八)川元) 初めや祭日に神社に詣で或は仏前に合掌することは一つの行である。

「祈らずとも神は守らん」など云わば、朝夕神仏を拝み、正月の初めや祭日に神社に詣で或は仏前に合掌することは一つの行である。



大河は音をたてます

教育長 己辰牧小牧

町民の皆さん 明けましておめでとうございます。

導御協力によりまして

昨年は皆さまの御指

町教育躍進の年でありま

五教室一二五坪の新築

大原小中P.T.A研究公開も一月

二十日にもつ事になつています

その研究に今鋭意努力中で校区民

の熱意もぐんぐん盛り上つてき

ましたことは町教育発展の為に喜

ばしい限りであります。

教育は、学校、社会、家庭が三

室の螢光灯の取付、田代高校の和

牛導入など施設整備に一段と努力

して参りました。一方教育内容方

面では小学校は新教育過程実施の

年で、各学校ともこれが研究に銘

意努力されています。中学校は本

躍進の年であつたと申しましても

あります。その点におきましても

者一体となつて進まなければその

効をあげえないことは自明の理で

あります。その点におきましても

育は根気くらべであるとも言われ

ます。たゆまず、ねばりつづける

ことこそ、私たちにあたえられた

課題であると思います。

本年は寅年であります。現在ま

での基礎の上に、まさにトラの如

く勇往邁進すべき年かと思ひます

教育は決して派手ではなく、内面

的な地味な活動であります。大

河は音をたてし发展への確乎た

る基盤ができましたことを町民皆

様と喜びたいと思います。そして

昨年度研究の経過をふり返つて

みますと、田代小では体育指定校

まわりまして、教育の花を咲かせ

たいものと思います。一方田代中

の移転問題、田代高校の充実問題

など、重大なる懸案が残されてい

ます。之が解決に万全の努力を

傾注したい覚悟であります。

新年にあたりまして所感の一端

を述べましてお祝いのことばとい

、本人の能力、性格

家庭等を考慮して

慎重に進路の指導を

行つてきた結果、十

月で殆んど方向が固

つた。

田代町農業共済組合

組合長 原順

事務所長 前田昌之

外職員一同

田代町農業共済組合

組合長 原順

事務所長 前田昌之

外職員

喜ぶ心を養い明日への希望を

社会教育委員長 荒木秋由

明けまして御出度う御座いま

す年頭に当りまして皆様に一言御挨拶申しあげます、皆様よき新年を御迎えなされまし事と存じ心から御祝い申しあげます。

拓て私共の田代町も八十有余年と

言う長い歴史のからを破つて昨年四月村より町へと生れかわり大き

な希望のものに新発足致した次第であります。然し乍ら一朝一夕に

してたゞちに生活が變る事の出来ないのは過去の経験からして当前の事と思ひます。

然し乍ら世はあげて所得増加の掛声と共に上昇の一途をたどり都

市工業地帯の伸び行きは止むとこ

ろを知らない有様だと新聞ラジオは報じて居ります。本年度の税の自然増も五六千億とか国家予算も二兆四五千億とたゞ驚く可き数字がならべられる今日私共農村民は

世の流れに如何に対処すべきかと

心の寒さを感じる次第であります。

若人は都市へと流れ出し労働力は不足老令化農村の一大

危機かと思考され政府の政策に対し充分に不足も申したいけれども立場を堅持して行うとする時止む

な現象と考えざるを得ない次第

に考えられる様になつたのは確に農村も一步も二歩も前進したと言えましょう、又牛馬等の飼料にしめ夏はともかく冬は遠く山中に青葉をもとめ半日或は終日の日課であつた事は遂先年迄の事であつた事ではないかと思いま

す。そうした生活のゆとりと労力の半減が農村にも確に進歩があり前進して居る事をさとり喜ぶ心を

養い明日への希望をもつては

ないかと思います。其れには幸運を待つのでなく福を与えらるべく

不斷の努力が大切な事は申込あ

りません、社会教育の場に於てい

つも言われます事は一家和合近所となり仲よくと申されるのであり

ますが若し一人の人に不平の心が

あり其の人が自分勝手に言いたい放題な事を言つたら和はたぢまちにしてこわれ取りかえしのつかない事になりましょう、人の古きず等にさわらん事が大切かと思いま

す。

次に我が田代町は県の観光指定

区域より取り残されて居りますの

す時正に隔世の感が致すのであり

ます。食生活は言うまでもなく家

屋の改修台所の改善道路の延張張等すでに一変し青年団婦人会小組等の慰安旅行農協寺院等の日本

と整備されて我等の生活にも寄手

する處が大なる事は明かな事かと

思います、私共農村人も希望を捨てず現実を喜び楽しみ乍ら将来へ

の發展を祈念して大いにがんば

るために必要なものであるか、否か

をよく見きわめ農協金融の本質を

あやからぬ指導金融であり又過剰投資に對しことわる力を備える

必要があると思います。

即ち、經營規模の拡大がはたし

て儲かるものであるか、またいま

は儲かつてないが将来儲かるよ

うになるかということです。

農協が資金を融資しただけ農家

ではないとも聞くようになります。

農業の近代化とは、ひとくちに云えば、農業所得は国民所得の

中で最も零細であるのでこの所得

の格差をなくし農村の經濟を豊かにし都会などの生活が出来るようになるのが農業の近代化であると

思われます。農業の所得を引上げるには農業の選択的拡大（農業の成長部門である畜産果樹等）が必要であります、今農業の規模拡大の資金で農業者の資本裝備の高

度化を図り農業經營の近代化に資

しても進められて居ります農業の

大規模化は農業の所得をふやそ

うことが目的で、したがつて

小規模經營のときよりも儲かる經

営にすることが大切であります。

この資金は國の農業基本法にもと

づく農業近代化資金助成法によ

るもので國と県はこれに対し一分

の利子補給をするだけで近代化

資金の源資といふものは系統農協

（県信連）によつて貸出しきる

ものであつた。

一つに交通網は充実され道路は一段

で進み、どのよくな問題をもつ

つて居りとして組合の金融はどのよ

うな姿勢でござるに取組んでお

可愛い生徒のため

田代中学校長

入佐正義

ク元朝や紫紺豊かに嶺も雲も

20

七

三

。大隅の山ふところ、山紫水明の
平和境——豊かな自然がかもし出
すそのすがすがしさに、心ゆくまで
る思いで、わたしは屠蘇をしみじ
みと味わう。

タ識月の厚をいとほし初鏡

○

来し方を振り返り、その感用の厚さを思う。それは、ずしりとした重量感をともなつてわたしの胸に迫る。

卷之三

わたくしは新年の意義を考えた。いとくに生々と動いておらず、ただの年

「中味をつくりたい。」
中庸にいわく
「学んで思わされなすなほぢへ
く、思つて学ばれなすなむ
危し。」

理知と情愛の両立を教えた古の
名言である。知識が先走り、「こ
とあげしに目が向さずき、他をコ
こぎねらす」とことはするが、内省
が不足し、実がともなわない——
また偏狭であり、血ひり生きず、
他も生きない。狭い視野を固執し、
理へつなぎに行動することを尊ぶ
とする——自分の立場だけの誇り
に終る。これらは偏狭であり傷つけ
き傷つけ合う。——これが横た
し、対立する世相は、あることによ
しい。責任をもつて事を遂にすこ
者者の自戒としなければならない
ことだと思う。

かびしい自己反省に立つて、ナ
ガ何よりも「中味」をつくること
が、今日ほど大事なときはなんど
思うことである。その「中味」
は、ジャンジャツケルソーの「セ
人を書するなし」の精神であり、キ
リストの「隣人への愛」、釈迦の
「慈愛」の心でありたいと思う。

そこで、年頭にあたつてのわが
しの内省と「ねがい」を一つ二つ

田代は自然美に包まれた平和境である。田がぐるしく激動する現

地ない。次代を背負う、この生徒たちを、現状のまゝで押しこんでおることは本町の人材養成の面からも憂慮に堪えない。

○の大雅の書幅床に掛く新
眼よかがしなねむ

(吉井勇)

謡題と結びつく
てん採



改善作物として36年度より普及作物に取り上げ本格的てん菜栽培普及を行い、75名の栽培者で町歩の植付をなした。この栽培については農家としては殆んど始めてで有り、栽培上色々な問題点も有つたが現在では適切なる管理がなされているため順調な生育をなしている、先づてん菜の有利性として、(1)砂糖原料として比較的の安定した換金作物である、(2)その深根性は土壤改良によるてん菜の後作の增收に役立つ、(3)茎葉やしづき粕は畜産と結びつき畑作改善に効果をもたらすことが多い。

煙草旱水後作として又畠改善作物として育て上げ、畜産振興と合せて農業近代化への足がかりにならう努力したいのです。

Digitized by srujanika@gmail.com